

# 震災の教訓を忘れない

## 災害に備え、市総合防災訓練

東日本大震災から1年を前に、3月3日、イオンモールつがる柏で平成23年度つがる市総合防災訓練が行われ、自衛隊、警察署、消防署、市社会福祉協議会、市赤十字奉仕団、自治会など約450人が参加し、災害時の備えを確認しました。

訓練は大規模地震を想定したもので、ドクターヘリによる救助搬送訓練や消火活動、炊き出し訓練などが本番さながらに繰り広げられました。



多くの市民が見守る中に行われた救出訓練



誘導に従い店内から避難する参加者



避難所受け入れ訓練

訓練は、午前10時00分、青森県西方沖を震源とするマグニチュード8・2の地震が発生した。つがる市では震度6強を観測し、市内各地で建物の崩壊や火災が発生している。この地震により、イオンモールつがる柏では大規模な火災が発生し、大勢の買い物客が店内に取り残されている——という想定で行われました。

緊急地震速報が会場に流れると、イオンモールつがる柏店内から約130人の市民が誘導に従い、一時避難所として設置されたバルーンシールドターへ避難しました。

市と消防本部が、現地災害対策本部及び現場指揮本部を設置すると、救助隊が地震による火災で店内に取り残された要救助者を次々に救出し、負傷者を応急救護所へ搬送。応急救護所では、保健師が応急手当を行うとともに、重傷度や緊急度に応じて優先順位を決定し、救急車や県ドクターヘリによる負傷者搬送訓練が迅速に行われました。また、柏地区消防団、消防署、自衛隊らが連携し、消火作業を行い、本番さながらの実践的な訓練が繰り広げられました。一時避難所では、つがる市



店内に取り残された要救助者を助け出す消防隊員



講評を述べる福島本部長



赤十字奉仕団による炊き出し



ドクターヘリによる負傷者搬送の訓練



自衛隊員による炊き出し



避難所のバルーンシェルター前で訓練を見守る参加者



火災発生を想定した放水訓練



放置車両を移動させ緊急交通路を確保



応急救護所から負傷者を搬送



ボランティア受付訓練

閉会式では福島弘芳災害対策本部長から「東日本大震災から1年を迎えるこの時期の実践的な訓練は、防災意識の向上に大変有意義でした。災害に備え訓練を通じ、関係機関とさらなる連携を強化し防災力の向上を図るとともに、地域は地域で

また、社会福祉協議会は、災害救援ボランティアセンターを設置し、活動者と被災者のニーズを調整する災害ボランティア受付訓練を行うなど各種訓練を通して、防災体制の強化と地域住民の防災意識の高揚を図りました。

赤十字奉仕団と航空自衛隊車力分屯基地隊員がおにぎりや豚汁300食の炊き出しを行い、避難者へ提供しました。さらに、河川や湖沼の水から1日に約1万リットルの飲料水を造水することができるとの造水機による応急給水訓練も行われました。



閉会式で防災に対する決意を新たにする参加者

守る”堅い結束力を持つ自主防災組織の充実を推進していきたい」と講評がありました。東日本大震災から1年が経過。私たちは震災の教訓を風化させることなく、一人一人が災害に対する日頃の備えを万全にする必要があります。